

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:平成 31 年 1 月 25 日

公表:平成 31年 3月 27日

事業所名        ともどもデイサービスぽると

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		国の基準に基づいて、定員人数を遵守している。	保護者に伝わりやすいように、今後も最善のスペース作りに努めていく。
	2	職員の配置数は適切である	○		国の基準に基づいて、配置している。	人数について、保護者へ十分に伝わっていないので、職員の人数等について、文章や面談等で説明していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		現在、通所している子に対して、必要な対処はしている	今後、必要が生じた場合に、随時バリアフリーも追加していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の申し送りだけでなく、定期的な研修と会議を開いていく。	もっと綿密な目標設定と振り返りを行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		外国人の保護者に対して、対面での説明やルビを振るなどの対応をしている。	細やかなアンケートの実施に努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ブログにも公開している。	今後の会報にも、アンケートを掲載できる様に、会報の準備を努めていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第3者外部評価を行っていない。	今後、適切な方をお願いし、行っていくようにする。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的な研修を開き、障害への理解や対応を話し合っている。	研修で学んだ知識を現場で発揮できる様に、努めていく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		必要に応じて、随時、保護者との面談を行い、その内容に応じて適切な計画を作成している。	今後も、保護者のニーズにより添えるように、努めていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		使いやすい形式の書面を利用している。	もっと標準化されたアセスメントツールの作成して、誰でも状況を把握できるようにしていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		行っている。	立案した活動プログラムを会議で、職員全員で共有していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		支援内容が偏らないように、常に工夫している。	ネットや文献などを参考にしながら、工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		生徒の利用時間に合わせた活動内容にしている。	計画を立案して、もっと子どもたちが楽しめる活動作りを心掛けていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々の障害特性に合わせた個別、集団活動計画にしている。	個別、集団ともに支援プログラムを増やすことで、個々で飽きがこないようにしていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日々の申し送りで、当日の職員の動きの確認を心がけている。	2週間分の職員の担当や動きを周知できるようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		後でお思い出した時には、メールを利用し、うっかりミスが起こらないように気をつけている。	日々の申し送り以外の場でも、情報共有の場を設けていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録を徹底して、計画の変更考えられる場合は、変更を随時行っている。	記録のみで終わることなく、懸賞や改善をはかっていくようにしていきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		随時、面談を行っている	必要に応じて迅速に見直しし、支援に反映していくようにしていきたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		ガイドライン以外で、老人ホーム慰問などを設定し交流を図っている。	もっとガイドラインを活用していく。

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	精通した担当者が担当している。	担当者が参画した内容を円滑に他の職員へ伝達できる様にしていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	事業所から児童の様子学校へお伝えし、学校からは、様子の聞き取りや学年通信なども頂いて、情報共有をしている。	今後も、教師との情報交換をしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	医療的ケア必要になる子がない。	現状、医療的ケアの子どもがいないので、必要な子の受け入れがあった場合、体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	受け入れの際には、保護者から就学前の情報提供を頂いている。	円滑に情報提供を進めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	事業所から連絡があった場合、情報共有をしている。	円滑に情報提供をしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	随時研修を受けている。	もっと、円滑に助言や研修を受けるために、親密な関係を築いていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	地域の公園でレクを行っている。障害のない子どもと活動する場もあるが多くはない。	もっと活動範囲を広げて、子どもの交流場所を増やしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	案内があれば参加している。	積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○	面談を通して行っている。	今後とも、必要に応じて面談し、適切な支援をしていく。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	面談の口頭のみである。	今後、積極的に取り入れていくようにする。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時の際に運営規程、支援の内容、利用者負担等について説明を行っている。	運営規程、支援の内容、利用者負担等について、丁寧な説明が出来るように、他の職員に知識の共有を行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	面談だけでなく、日々の送迎時や面談の際でも、細やかに助言と支援を行っています	相談を出来る場づくりを行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	今年度は行っていない。	父母の会等の活動に対し、参加したくない人や時間のとれない人やあまり他者と関わりたくない人もいたため、強制はしていない。必要があれば、当然協力を惜しまない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情窓口を設定して、苦情マニュアルに基づいて対応する。	今後も、対応の体制を整えていき、保護者の方の悩み事や支援についてのアドバイス等があった場合は、迅速に対応する努力をしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	日々の活動について、ブログの更新は行っている。	ホームページの更新、会報誌の作成などで、活動の様子など、公表していく。
	35	個人情報に十分注意している	○	十分に注意し、鍵付きの棚に保管したり、写真では顔を隠している。	今後も、計画等の書類を管理する際、個人情報が流出しないように、配慮していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	分かりやすい説明や連絡手段を個別に検討している	積極的に職員の研修等を行っていき、知識を共有して、障がいのある子どもや保護者と保護者の方に研修等培った知識で伝達していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	老人ホームの担当者等と定期的に連絡を取り合っている。	今後も、地域の行事に参加させてもらえるように、定期的な付き合いを行っていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		職員の研修等を行っている。	定期的な研修について、保護者の方に研修等を行っている事を伝達していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		施設内訓練と専門業者委託訓練とを合わせて訓練を行っている。	定期的な施設内訓練や研修、専門業者による訓練等を連絡帳等で、お知らせしているが、今後とも保護者に伝わる様に、ブログや送迎時やお便りを利用していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修会に参加し事業所内で伝達している。	随時、研修会で得た知識を職員間で共有していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束が必要になる子がいない。	現状、身体拘束が必要な子どもがいないので、必要な子の受け入れがあった場合、必要に応じて整えていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		現在、アレルギーの子がいない。	受け入れ体制が弱いため、今後、アレルギーに対する知識を深めていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットが発生した場合、迅速に申し送り職員間に伝達している。	ヒヤリハットが起きないように、気をつけていく。